

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】

- ①自分たちが食べている野菜がどのようにしてできているのかリモートで畑を見て知る
 ②保育園で出る生ゴミを使ってコンポスト作りにチャレンジする

<テーマの設定理由> (テーマに関する 子どもの興味関心、園の特色 など)

- ①でもキュウリとオクラを育てた。きゅうりは収穫できたがオクラは収穫することができなかった。実際に野菜を農家さんが畑で育てていることを子どもたちに知ってほしくこれを設定した。
 ②土の中のいきもの（微生物）の働きを知り、自分たちの出したゴミが微生物の力で土に戻ることを知る

2. 探究活動の実践

対象クラス・対象人数								
実施日	0歳児 クラス (人)	1歳児 クラス (人)	2歳児 クラス (人)	3歳児 クラス (人)	4歳児 クラス (人)	5歳児 クラス (人)	地域 子ども (人)	地域 大人 (人)
① 2025/9/8				17				
② 2025/9/24						17		
③								
④								
⑤								

活動内容

①3歳児: リモート畑ツアーを行いました。場所>うみ組の部屋にスクリーンとプロジェクターを用意した。子ども達はスクリーンに映っているものに興味津々で実際にサツマイモの根がついているもの、トウモロコシ、これから植えるちいさな白菜をみせてもらう。「もっと近くで見たい」という児もいた。リモートでの問いかけに積極的に答えていた。農家さんから届いた茄子、オクラ、落花生の実物を3歳、4歳、5歳で見る。茄子、オクラは調理をしてもらい給食で食べた。落花生はゆでてもらい職員が頂いた。野菜が苦手な子どもも食べる姿が見られた。 ②5歳児: 道具A3サイズのイラスト。農家の方の写真、堆肥を作っている場面の写真。ダンボール、ピートモス、しん灰、野菜の切り端、ブルーシート、野菜をちぎる際のお盆。

お家で野菜を育てたことがある?の質問から始まり、子どもたちの経験を聞いたうえで、野菜を育てるために必要なことを質問し、子どもたちの考えを聞く。、土には微生物が必要なことやその微生物の増やし方等をクイズ形式で質問すると、意欲的に答える姿がある。野菜の切れ端を微生物のように小さくちぎることを伝えと友だち同士で「これくらいの大きさだね」と大きさを確認し合う姿があり、実際に指の上に乗せていた。毎日のお世話の仕方をよくきいていた。

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり等を記載ください。
(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等)

活動におけるチェックリスト	
グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促す。	○
活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録する。	○
乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行う。	○
記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返る。	○
幼稚園・保育所等の各施設の教諭数値・保育者同士や保護者等に、探究活動の内容を共有する。	○
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考える。	○

活動の様子が分かる写真 2 枚 以上 を貼付 してください。
 (HP など で 公開 する 可能性 があり ます の で 、 公開 可能 な もの を 使用 くだ さい。)



リモート畑
ツアー



コンポスト
作り



3. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

①都会の子ども達は畑を見る機会が少ない。畑で野菜ができることは知っていても土に埋まっている野菜、太陽の光で実る野菜など知らないことがいっぱいである。畑モートツアーで実際の農家の方との交流を通してとれたての野菜を見ることができた。日本には四季があり、その季節で収穫できるものが違う。どの季節にどんな野菜が収穫できるかなどを保育の現場の中で知らせていきたいと思う。

②家庭や保育園等での栽培の経験を基に土台である土作りに発展させた内容を行うことで、栽培活動の全容が少しずつ明らかになってくるのは良いと思った。今回1回ではなく、2か月という期間の中で毎日お世話をするという実体験が子ども達の育ちが学びに繋がっていくよう、保育者も日々の言葉かけを大切にしていこうと必要があると感じる。

4. 今月の購入実績

注文日	項目	費用（税込）	購入方法
2025/7/5（後払い）	七夕飾り（笹）	18,320	有限会社 橘農園
		18,320	

記入日： 10月1日

記入者： 大坪雅美